

奈良女大家政

○ 妻 羅 美

西村 一朗

今井 範子

久保 妙子

〔目的〕将来の高齢者社会を考えると、現在の住環境改善は必要であり、その中でも計画的な高齢者コミュニティ施設づくりと、高齢者の地域内での様々な活動は大事な事である。そこで本研究では、地域内での高齢者のサークル活動と利用場所を特に、未高齢者との共同利用の可否などについて調査し、問題点を明らかにし、将来の高齢者サークル活動とコミュニティ施設利用のあり方を提示することを目的とする。

〔方法〕調査対象地として高齢化が急速に進んでいる千里ニュータウンを取り上げ、60才以上の人を高齢者、それ未満を未高齢者と定義し、アンケート調査を行った。本報告は、その内高齢者を対象とし、サンプル数は、432人である。

〔結果〕①高齢者は、スポーツ的なものより、文化的サークル、講座に参加している人、そして民間施設より公的施設でのサークルに参加している人が多い。スポーツ的なものについては未高齢者との交流を望んでいるので、それらに合わせた多様なサークルの開発が必要であろう。②高齢者のサークル利用場所をみると、高齢者専用施設よりも一般住民と共に、サークル活動をしている公的集会施設の利用が多いので、将来の高齢者社会では未高齢者との共同利用ができる公的集会施設が高齢者コミュニティ施設として重要な役割を果たすと考えられる。③高齢者専用施設の利用頻度をみると、他のニュータウン内の施設に比べて低いので、その理由を解明し、さらに今回の調査でも分かったように、高齢者の望みどおり、高齢者コミュニティ施設を高齢者と未高齢者が共に利用しながら、同じ建物の中での分離と統合を適当にし、改善すること等、利用活性化案が必要である。